

( 1 ) 実施機関名：

( 独 ) 海洋研究開発機構

( 2 ) 研究課題(または観測項目)名：

銭洲海嶺南縁での地殻活動および地下構造評価

( 3 ) 最も関連の深い建議の項目：

5. 超巨大地震に関する当面実施すべき観測研究の推進

( 2 ) 超巨大地震とそれに起因する現象の予測のための観測研究

ア. 超巨大地震の震源域における地殻活動のモニタリング

( 4 ) その他関連する建議の項目：

1. 地震・火山現象予測のための観測研究の推進

( 1 ) 地震・火山現象のモニタリングシステムの高度化

ウ. 東海・東南海・南海地域

2. 地震・火山現象解明のための観測研究の推進

( 1 ) 日本列島及び周辺域の長期・広域の地震・火山現象

ウ. 広域の地殻構造と地殻流体の分布

( 5 ) 本課題の 5 か年の到達目標：

銭洲海嶺を含めた海域は、島弧地殻を持つフィリピン海プレートが衝突する地域であり、通常海洋性地殻の沈み込み形態とは異なる。銭洲南側で確認されている新たな沈み込みだけでなく、上盤側に発達する断層分布や下盤側の地殻構造は、東南海地震発生域、南海地震発生域とも異なる分布を示す。島弧地殻衝突域のプレート境界構造をとりまとめる。

( 6 ) 本課題の 5 か年計画の概要：

これまで、マルチチャンネル反射法探査と海底地震計を用いて、銭洲海嶺を含めた東海地域で構造探査を JAMSTEC では実施してきた。古くは 1997 年から少しずつデータを蓄積してきている。これらのデータをと取りまとめ、上盤側の地殻変形、下盤側のプレート構造を明らかにする。

( 7 ) 平成 24 年度成果の概要：

これまで、プレート境界には銭洲海嶺と同様な走向を持つ高まりが前弧域下に確認されている。これらの高まりは内部に P 波速度 6km/s を持つ島弧地殻に近い構造列を形成していることが明らかになってきた。上盤側では褶曲構造が一部取り込まれた様子も見つかリ、紀伊半島沖で見られる付加体構造とは全く異なる。下盤側では、トラフ軸に近いところに複数の断層が発達し、プレート内に強く変形をうけ、内部に構造線が発達することが分かってきた。

( 8 ) 平成 24 年度の成果に関連の深いもので、平成 24 年度に公表された主な成果物(論文・報告書等)：

( 9 ) 平成 25 年度実施計画の概要 :

反射法探査による反射断面と海底地震計を用いて求められた速度構造を比較し、確認できた変形構造と速度分布の関連性を明らかにする。さらに、震源分布を重ねて、銭洲海嶺を含めた東海沖海域の震源分布を規定する構造が何かを取りまとめる。

( 10 ) 実施機関の参加者氏名または部署等名 :

地震津波・防災研究プロジェクト

他機関との共同研究の有無 : 無

( 11 ) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署等名 : 経営企画室企画課

電話 : 046-867-9204

e-mail : takaoj@jamstec.go.jp

URL : <http://www.jamstec.go.jp>

( 12 ) この研究課題 ( または観測項目 ) の連絡担当者

氏名 : 金田義行

所属 : 地震津波・防災研究プロジェクト